

# 天 界

第百七號 (第十卷) 昭和五年二月

## 來る四月二十九日の日食

(特に北米の讀者のために)

山 本 一 清

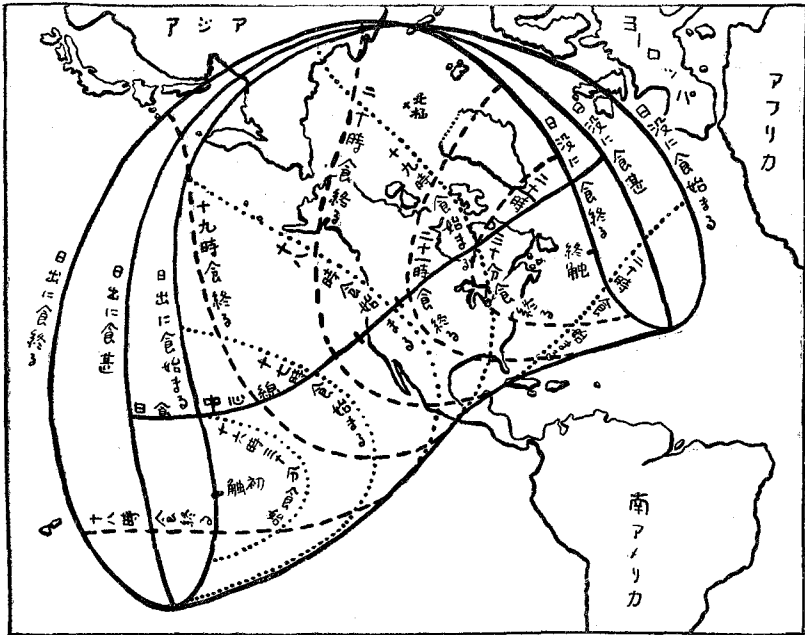
來る四月二十九日に日食がある。部分食の見えるのは、北アメリカ大陸の大部分を中心として、西は北太平洋の東半部、東は北大西洋の西半、それから、北はグリーンランドや北極地方から、シベリアの東北端を含む広い範囲であるから、世界地圖上では可なり広い範囲であるが、我が日本からは殆んど何も見えない。只、千島列島のウルツプ島以北では、此の日、日出と同時に、ごく少しく缺けたままの太陽が東の水平線に近く見える筈であるけれど、大して面白い景色とは思はれない。何と言つても此の日食を見るのは北アメリカ大陸が最も好い。

元來、此の日食の要素は(グリニチ時刻で)

|           |  |            |
|-----------|--|------------|
| 日月の赤經會合   | 四月 28日 19時 26分 56. <sup>s</sup> 5                  |            |
| 其の時の赤經は   | 2 <sup>h</sup> 21 <sup>m</sup> 36. <sup>s</sup> 39 |            |
| 太陽の赤經は    | 毎時間  | 9.48 増し    |
| 月の赤經は     | 〃  | 2 6.61 増し  |
| 太陽の赤緯は    | 北 14°6'  | 21.77      |
| 〃 〃       | 毎時間  | 47.3 増し    |
| 月の赤緯は     | 北 14.86  | 10.6       |
| 〃 〃       | 毎時間  | 13 45.3 増し |
| 太陽の赤道地平視差 |  | 8.7        |
| 〃 眞の視半徑   |  | 15 52.8    |
| 月の赤道地平視差  |  | 57 29.7    |
| 〃 眞の視半徑   |  | 15 39.2    |

此の日食は元來、中央線では「金環食」が見えるのであるが、其の途中で、ごく僅かな部分に限り、きわぎい「皆既食」なる。即ち、食の時刻としては

|             | 時     | 刻         | 頭上に見える場所   |                  |
|-------------|-------|-----------|------------|------------------|
| 食の始まり       | 四月28日 | 16時20.40  | 西經 153°56' | 南緯 6°41' (ハワイの南) |
| 金環食の始まり     | 〃     | 〃 17 25.7 | 〃 172 57   | 北緯 3 32 (桑 港 沖)  |
| 皆既食へ變る      | 〃     | 〃 19 26.9 | 〃 112 23   | 〃 45 40 (モンタメ州)  |
| 皆既食から金環食へ   | 〃     | 〃 18 48.8 | 〃 125 29   | 〃 35 28 (ハワイ西南)  |
| 金環食が正午に見える所 | 〃     | 〃 19 26.9 | 〃 112 22   | 〃 45 41 (モンタナ州)  |
| 金環食終り       | 〃     | 〃 20 40.1 | 〃 22 44    | 〃 50 46 (北大西洋上)  |
| 部分食の終り      | 〃     | 〃 21 45.9 | 〃 44 30    | 〃 40 56          |



四月二十九日の日食地圖 (時刻はカリニチ時)

地圖で見ても分る通り、皆既食が起るまでの金環食は、全部が太平洋上で見えるのであつて、其の中心線は、大體、ハワイ群島の東南沖を通つてゐる。

皆既食は、中心線が米國西岸のサンフランシスコ沖 200哩ほぎの所から

始まり、サンフランシスコ市の西北 50 哩ほぎの所から陸地に移り、カリフォルニアの北部をまつすぐに東北に横断して、ネブダ州の西北端に、オレゴン州の東南端をかすめ、アイダホ州の中央を通つて、モンタナ州へ200哩ばかり侵入した所で、金環食に變つて了う。

かういふきわぎい日食であるから、皆既食と言つても、極めて短時間のもので、其の繼續時間は

|             |    |      |
|-------------|----|------|
| カリフォルニア州で   | 平均 | 0.98 |
| ネブダ、オレゴン兩州で | ク  | 1.5  |
| アイダホ州で      | ク  | 0.8  |

であるから、眞に「アツ！」と言つてゐる間に、總てが済んで了うのである。従つて、専門家が觀測するにしても、よほぎの熟練家がやるのでなければ、コロナさへも中々むづかしいだらうと思はれる。只、しかし此の場合には、かの去る 1927 年の時の英國の日食と同様に、太陽と月との視直徑が殆んど等しいのだから、月球の全周にわたつて、プロミネンスの壯觀が觀察されるだらう。米國の天文家たちが、果して如何ほぎの計畫を以つて、觀測の準備を進めてゐるか、わからないが、しかし、皆既線の近くにはリクやパークレイの

立派な天文臺があり、  
又、キルソン山天文臺からも遠くないのだから、折角の此の機会に、何まか巧みな方法を実行するだらう。

此の皆既食の見えるあたりには、日本人も澤山住んでゐられるのであるから、アマチュアとして充分に面白く此の天來の珍象を見る

人も多からう。我が會員諸氏の中で、之れを見られたならば、報告文を寄せられんことを希望する。

